News Release

財務省近畿財務局
和歌山財務事務所
Kinki Regional Finance Bureau Ministry of Finance

令和８年11月５日

和歌山県内経済情勢報告

（令和８年10月判断）

１．総論

【総括判断】「緩やかに持ち直しつつある」（判断を据え置き）

項　　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
総括判断	**緩やかに持ち直しつつある**	**緩やかに持ち直しつつある**	⇨

（注）令和８年10月判断は、前回８年７月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にあるほか、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっているなど、全体としては、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項　　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	⇨
生産活動	足踏みの状況にある	**足踏みの状況にある**	⇨
雇用情勢	持ち直しのテンポが緩やかになっている	**持ち直しのテンポが緩やかになっている**	⇨
設備投資	８年度は前年度を上回る見込み	**８年度は前年度を上回る見込み**	⇨
企業収益	８年度は増益見込み	**８年度は増益見込み**	⇨

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

２．各論

【主な項目】

■ 個 人 消 費　「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、節約志向の影響などにより衣料品や身の回り品の売上げが減少している一方、飲食料品はおおむね横ばいとなっている。

コンビニエンスストア販売は、客単価の上昇に伴い、売上げは堅調に推移している。

ドラッグストア販売は、飲料や季節商品などの売上げが好調であり、前年の売上げを上回っている。

ホームセンター販売は、エアコンや季節商品などの売上げが好調であり、前年の売上げを上回っている。

家電大型専門店販売は、エアコンなどの売上げが好調であり、前年の売上げを上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、軽自動車は前年を下回っているものの、普通車・小型車は前年を上回っていることから、全体では前年の台数を上回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、国内観光客が増加しているほか、一部観光地において、外国人観光客も増加しており、観光客数が好調に推移している。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 節約志向の影響などにより身の回り品などの売上げは低調となっているものの、客数が増加していることから、全体の売上げは前年を上回っている。（百貨店・スーパー）
- ➢ 買上げ点数及び１点単価は上昇しているものの、客数が前年を下回っていることから、売上げは前年を下回っている。（百貨店・スーパー）
- ➢ 食料品については、生鮮食品をはじめとして全体的に商品価格が上昇傾向にあることに加え、客数も前年並みで推移していることから、売上げは前年をやや上回っている。（百貨店・スーパー）
- ➢ 気温が高かった影響により、飲料の売上げが好調となっているほか、冷感スプレーや制汗剤、日焼け止めなどの季節商品の売上げも好調となっている。（ドラッグストア）
- ➢ エアコンなどの電気製品の売上げが好調となっているほか、殺虫剤の売上げも好調となっていることから、売上げは前年を上回っている。（ホームセンター）
- ➢ 2027 年度からのエアコン省エネ基準強化を踏まえた需要が堅調となっているほか、蛍光灯の製造・輸入規制を背景に、LED 照明などの照明器具の売上げも好調となっている。（家電量販店）
- ➢ 前年は人気車種の生産が受注に追い付かず受注制限が実施されていたものの、現在は海外生産車の逆輸入などにより受注制限が大幅に緩和されていることから、受注環境が改善し、販売台数は前年を上回っている。（自動車販売店）
- ➢ イベントの影響もあり、お盆期間を中心に国内観光客が増加していたほか、イベント期間外においても、観光バスツアーなどにより国内観光客、外国人観光客ともに増加している。（公共団体）
- ➢ テレビ放映の効果もあり、ファミリー層を中心に国内観光客が増加している。また、中国人観光客についても増加傾向にあり、訪日自粛の影響は薄れつつあると感じている。（観光関係団体）

■ 生 産 活 動　「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数でみると、「機械工業」、「鉄鋼業」、「化学工業」などで上昇している。一方で、企業からは、物価高による消費者の節約志向や中東情勢の影響などにより、需要が減少しているといった声が聞かれていることから、生産活動は、足踏みの状況にある。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 国内需要は前年並みで推移しているものの、物価高の影響などによる業績不振から、取引先企業が設備投資に慎重となっている状況が続いている。海外については、景気低迷やインフレの影響などにより、設備投資が低調となっていることから、需要が減少している。（生産用機械）
- ➢ 国内需要は、建築分野、自動車分野ともに厳しい状況が継続している一方、半導体工場やデータセンター関連の建設需要がみられる。海外需要は、中東情勢の影響により、中東向けの自動車関連製品やエネルギー関連製品の出荷が停滞している。（鉄鋼）
- ➢ 工場全体の生産量は堅調に推移している。各種コストの上昇を受け、価格転嫁を進めているところ、足下では、物価高による消費者の節約志向、買い控えの影響から、家庭用製品の需要が減少している。（化学）
- ➢ 中東情勢の影響により、建設工事の着工遅れが生じたため、建築需要は伸び悩んだものの、職場における熱中症対策の強化の影響により、空調関連製品の需要が増加している。（金属製品）

■ 雇 用 情 勢　「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

有効求人倍率は下げ止まりの動きがみられるほか、新規求人数は横ばいで推移している。また、法人企業景気予測調査（令和 8 年 7～9 月期調査）の従業員数判断ＢＳＩは、「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

（主なヒアリング結果）

- 「医療・福祉」において、事業所訪問等による求人開拓の推進、求人情報の拡充支援を行った影響もあってか、新規求人数は減少から微増に転化している。（公的機関）
- 受注が増加する中、人手不足の状態が続いており、休日出勤や時間外労働で対応せざるを得ない状況である。そのため、継続的に求人を出しているが応募は少なく、人材確保に苦慮している。（金属製品）
- 都市部と比較して地方部では人材確保が難しいため、スポットワークにより雇用するなどして、人材確保に努めている。（百貨店・スーパー）
- 営業職が不足しており、自社 HP で中途採用を募集しているものの、応募は少ない状況。定年退職を迎える従業員が多いため、それを補う人材を確保したいものの、新卒採用は数名程度に留まっている。（自動車販売店）
- 現場監督の人材が不足しており、受注を見送るケースがある。ハローワークや民間求人サイトに求人を出しているが応募は少なく、採用は難しい状況。（建設）

■ 設 備 投 資　「8 年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査（令和 8 年 7～9 月期調査）でみると、8 年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企 業 収 益　「8 年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査（令和 8 年 7～9 月期調査）でみると、8 年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住 宅 建 設　「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数（3 ヶ月後方移動平均値）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、持家で前年を上回っているものの、貸家、分譲で前年を下回っている。

■ 公 共 事 業　「前年を下回っている」

前払金保証請負金額（年度累計額）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、独立行政法人等で前年を上回っているものの、国、県、市町村で前年を下回っている。

■ 企 業 倒 産　「前年を上回っている」

倒産件数は、前年を上回っている。

■ 景 況 判 断　「「上昇」超となっている」

法人企業景気予測調査（令和 8 年 7～9 月期調査）の景況判断 BSI でみると、全産業で「上昇」超となっている。

産業別では、製造業で「下降」超となっているものの、非製造業で「上昇」超となっている。

規模別では、中小企業で「下降」超となっているものの、大企業、中堅企業で「上昇」超となっている。

連絡・問合せ先　和歌山財務事務所 財務課 TEL： 073-422-6142